

第5次所沢市総合計画 総括表

施策(章)	第 4 章 『教育・文化・スポーツ』
-------	--------------------

記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	教育総務部次長 千葉 裕之
-----	------------	--------	---------------

まちづくりの目標	教育の充実、文化・スポーツの活性化で 所沢の魅力を高めます
分野別計画・指針	所沢市教育振興基本計画、第4次所沢市生涯学習推進計画、所沢市いじめ防止基本方針、所沢市図書館ビジョン、第2次所沢市子どもの読書活動推進計画、所沢市スポーツ推進計画、所沢市文化芸術振興ビジョン

基本構想	<<市の課題・方向性>>
	市民や地域のニーズを踏まえ、より良い教育環境と地域づくりをめざし、計画的に教育行政を進めることが必要です。そのため、生涯学習の充実に向けて、市民ニーズを捉えた学習機会の提供や学習事業を実施し、誰もがいきいきと学ぶことができる環境づくりを進めます。 また、地域とともに歩む「特色ある学校づくり」や学習環境の整備を計画的に進めるとともに、「あいさつ運動」などによる地域との関わりを通じて、心豊かでたくましい子どもたちを育む学校教育を推進します。 次代を担う青少年の健全な育成を推進するため、地域、家庭、学校が連携したサポート体制を充実します。 さらに、歴史を大切にし、伝統文化を継承しながら、新たな市民文化の創造・育成を進めるほか、スポーツ環境を充実させ、スポーツを楽しむ地域づくりをめざします。
	<<まちづくりの目標の実現に向けた主な方針>>
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生涯学習の推進 ◆ 地域とともに歩む学校づくり ◆ 確かな学力と健やかな心身を育む学校教育の充実 ◆ 青少年の健全育成と子ども・若者支援の充実 ◆ 学校施設の耐震化

平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、顕著な成果があったもの

取り組み	成果	<<まちづくりの目標の実現に向けた主な方針>>
学習講座等開催事業について、親子を対象とする講座や、土・日曜日に講座を開催するなどして、受講者層の拡大を図った。	固定化されつつある講座参加者層を、講座内容や開催日を工夫することで、若年層も取り込むことが出来た。	◆ 生涯学習の推進
学力向上支援講師、学習支援員など、学校への各種人的配置を進めた。	人的配置の充実により、児童生徒へのきめ細かい指導の充実と一人一人と向き合う時間の確保につなげることができた。	◆ 確かな学力と健やかな心身を育む学校教育の充実
老朽化が進んでいる学校トイレについて、洋式化、バリアフリー化、床の乾式化などの改修事業を進めている。	工事完了後の教員生徒へのアンケートで、「臭わない」「キレイ」「明るい」など大変好評な結果を得ており、学校環境の向上が図れた。	◆ 確かな学力と健やかな心身を育む学校教育の充実
児童館に指定管理者制度を導入した。	開館日数の増加や事業の多様化により、利用者数の増加が図られた。	◆ 青少年の健全育成と子ども・若者支援の充実
平成24年度から図書館分館7館の運営に指定管理者制度を導入し、利用機会の拡大・サービスの向上に努めた。	全館での祝休日開館、所沢分館・新所沢分館での平日夜間開館の実施により、図書館利用の利便性が向上した。また、多彩な自主事業の実施により、行事開催回数及び参加者数が大幅に増加した。	◆ 生涯学習の推進
生涯学習推進センターふるさと研究エリアにおいて、郷土の自然・歴史・芸術・文化等の資料収集、研究を進め、これらの成果を市民に伝える体験学習、展示、講座等を実施した。	各種講座や企画展事業を行い広報普及に努めたことにより、ふるさと所沢への理解が深まりつつある。また、市民学芸員(市民ボランティア)が企画展等に関与出来るようになってきた。	◆ 生涯学習の推進

平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題

課題	今後の方針	〈まちづくりの目標の実現に向けた主な方針〉
生涯学習活動が、地域で求められている人材や事業に繋がり難い現状がある。	生涯学習活動を通じた生きがいや活力を、地域を支える人材の活躍に繋げていく事業を展開していく。そのためには、市民大学をはじめ各種講座の在り方も再検討していく。	◆ 生涯学習の推進
学校・家庭・地域が連携した学力向上への取組を行い、また、人的支援の充実にも努めていく。	学力向上推進事業により、学校・家庭・地域が連携し、学力の向上を図る。各種支援員等、学校への人的配置を進める。	◆ 確かな学力と健やかな心身を育む学校教育の充実
学校給食施設の再整備	安心・安全な学校給食を安定的に提供するために、老朽化が進む学校給食センターの再整備に取り組む。	◆ 確かな学力と健やかな心身を育む学校教育の充実
地域のニーズに合った学習機会の充実を図る。	地域のニーズに合った学習機会をさらに充実させるとともに、市民と協働し、地域づくり、人づくりの推進に向けた事業に取り組む。	◆ 生涯学習の推進
子どもの読書活動のさらなる推進	関係機関等と連携しながら、「第3次所沢市子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動を推進する。また、引き続きあらゆる機会とあらゆる場所において、子どもたちが自主的に読書活動を行うことができるよう努める。	◆ 確かな学力と健やかな心身を育む学校教育の充実
文化財の保存、活用と資料施設の整備	文化財に関わる調査を実施し、その保護と活用に取り組むとともに、保存施設について、既存の施設を見直し、整備に向けて検討していく。	◆ 生涯学習の推進
スポーツの普及、発展。いつでも、どこでも気軽にスポーツ活動に親しめる環境づくり。	ライフステージに応じたスポーツプログラムに充実を図るとともに、手軽にできるスポーツを通じて、健康づくりを推進していく。	◆ 生涯学習の推進

節	目標指標	単位	指標のめざす方向	前期基本計画 H23～H26			後期基本計画 H27～H30			
				第5次所沢市総合計画策定時（H22）	前期計画終了時（H26） 上段：目標値 下段：実績値	達成率（H26）	実績（H30） 上段：目標値 下段：実績値	達成率（H30）	目標値（H30）	
第1節 生涯学習	生涯学習の環境づくりに関する満足度	%	↗	31.2	40 21.4	53.5%				
	生涯学習推進センターの施設利用者数	人	↗	26,099	100,000 78,785	78.8%	100,000 79,415	79.4%	100,000	
	生涯学習推進センター主催事業参加者数	人	↗				19,000 17,391	91.5%	19,000	
	生涯学習推進センターの主催事業参加者の満足度	%	↗				100 92	92.0%	100	
後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析										
<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者数について、ここ数年、7～8万人で推移している。例年、大きなイベント開催時の混乱回避のため会議室の貸し出しを制限しており、利用者数の大幅な増加を図ることができなかった。 ・目標には達していないが各講座の受講者は横ばいであり、おおむね達成できている。 ・目標には達していないが受講生からのアンケート調査により、おおむね満足していると考えられる。 										
第2節 学校教育	学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合	児童	%	↗	89.3	94.0 92.8	98.7%			
		生徒	%	↗	85.8	90.0 86.1	95.7%			
	不登校児童・生徒の割合	%	↗	1.28	1.03 1.34	76.9%				
	所沢市立小中学校施設の耐震化率	%	↗	59.8	100 100	100%				
	授業がわかりやすいと思う児童・生徒の割合	%	↗				90.0 90.5	100.0%	現状値以上	
	教育センター研修会の満足度	%	↗				76 74	97.4%	76	
	新体カテストにおける全種目の全国平均を上回る割合	%	↗				56.4 56.9	100.0%	56.4	
	学校トイレの改修率	%	↗				35 41	100%	35	
	特色ある私立学校の開校	-	-				推進 推進	100%	開校	
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析									
<p>研修会の満足度について、前年度より3%上がったが、課題としては、学校の現状やニーズに沿って設定された研修会であったかという点である。その点について、より充実したものにするためにも、諸調査の分析や実態把握を行うなど、教職員に一層寄り添った研修会運営を図る必要がある。（今後の指標については、「大変よかった」「よかった」の総括した回答数を実績値とする。）</p>										

目標指標の達成状況

節	目標指標	単位	指標のめざす方向	前期基本計画 H23～H26			後期基本計画 H27～H30			
				第5次所沢市総合計画策定時(H22)	前期計画終了時(H26) 上段:目標値 下段:実績値	達成率(H26)	実績(H30) 上段:目標値 下段:実績値	達成率(H30)	目標値(H30)	
第3節 青少年育成	子どもたちの笑顔があふれるまちづくりの進捗度	就学前	%	↗	20.5	26.7 26.3	98.5%			
		小学生	%	↗	21.8	30.0 28.4	94.7%			
		中学生 高校生	%	↗	10.2	14.1 15.5	100%			
	大規模放課後児童クラブ解消率	%	↗	90.2	100 79.1	79.1%				
	青少年の健全育成に関する施策への認知度	%	↗				50.0 39.9	80%	50	
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析 青少年健全育成に関する施策への認知度は、市民意識調査回答者の年齢が高くなるにつれ低くなっている。青少年を取り巻く大人の青少年施策に対する関心が低いものとする。									
第4節 社会教育	市民等と協働で企画実施した事業の割合	%	↗	50.2	55.0 55.7	100%	59.3 64.9	100.0%	59.3	
	図書館の蔵書数	冊・点	↗				912,000 978,151	100%	912,000	
	図書館の資料貸出数	冊・点	↗				1,758,000 1,595,889	90.8%	1,758,000	
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析 ・図書館の開館時間内の利用や来館が困難な市民等に対して実施している、コンビニエンスストア図書等取次事業において、平成30年1月に、駅から近く取扱い数の多かったコンビニエンスストア1店舗が、閉店によりサービス終了となったこと、また、平成30年10月15日から平成31年2月28日まで狭山ヶ丘コミュニティセンター施設改修工事のため、狭山ヶ丘分館において休館(ただし臨時窓口は開設)であったことが理由と考えられる。									
第5節 市民文化	芸術・文化に触れる機会への満足度	%	↗	46.5	51.5 38.1	74%	44.1 43.3	98%	44.1	
	ふるさと所沢に触れる機会	人	↗	2,361	5,000 6,245	100%	16,000 15,332	96%	16,000	
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析 芸術・文化に触れる機会への満足度について、今年度はわずかに及ばなかったが、最終の目標値に達した前年度と比較すると、年齢別の満足度で増減それぞれがあった。幅広い年齢層に偏りなく機会を提供できるよう努めているものの、まだ足りないところがあったと思われる。									
第6節 スポーツ振興	スポーツ・レクリエーション施設の利用者数	%	↗				878,000 871,988	99.3%	878,000	
	スポーツを楽しんでいる市民の割合	%	↗	49.2	52.5 51.4	97.9%	54.3 49.8	91.7%	54.3	
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析 ・スポーツ・レクリエーション施設の利用者数について、市民体育館のメインアリーナ床改修工事により期間中の利用者が減少したことなどが考えられる。 ・スポーツを楽しんでいる市民の割合が目標値に達しなかったものの、楽しんでいると答えた人の割合は上昇した。引き続き、スポーツをするだけでなく、スポーツ観戦やスポーツボランティアなど様々なスポーツとの関わり方がある中で、十分に情報提供を行うことによりスポーツを楽しんでいる市民の割合増加に努める必要がある。									

目標指標の達成状況

第1節	生涯学習	まちづくりの目標	いくつになっても気軽に学べ、学んだことを地域に活かせるまち			
基本方針	4-1-1 学習機会の充実					
	4-1-2 市民の学習と学んだことを地域に活かすための支援					
	4-1-3 学習環境の整備・充実					
	4-1-4 学習情報の収集・発信					
	4-1-5 学習資源の蓄積・活用					
関係所属	生涯学習推進センター					
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)				要望率	全節中順位	分野中順位
				8.3%	29位	4位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
出前講座について、リクエスト講座を含め、申し込みの希望内容を精査し、できるだけ実施できるように関係課との調整を密に図るとともに利用方法、講座メニューの入手等に関しての案内に努め、市民への制度の理解と促進に努めた。		毎年コンスタントに申し込みがあり、事業の認知度も上がっており、市民に浸透してきている。			4-1-1 学習機会の充実	
学習講座等開催事業について、親子を対象とする講座や、土・日曜日に講座を開催するなどして、受講者層の拡大を図った。		固定化されつつある講座参加者層を、講座内容や開催日を工夫することで、若年層も取り込むことが出来た。			4-1-1 学習機会の充実	
IT相談について、相談員の懇談会を開催し相談内容等の情報の共有化を図るとともに相談員の高齢化に対応するため公募を行い増員を行った。		きめ細かい相談対応が図れるとともに相談員の増員により安定したシフトが組めるようになった。			4-1-2 市民の学習と学んだことを地域に活かすための支援	
市民要望に対する東門の開放や公共施設修繕計画に基づく工事等を実施。 また、公共施設予約管理システムの更新やPC研修室のPCの入れ替え、図書資料室の開放を行った。		施設の延命が図れるとともに、利用者の利便性が向上し、学習環境を整備した。			4-1-3 学習環境の整備・充実	
生涯学習情報紙「翔びたつひろば」について見易さと情報の効果的な提供の仕方を念頭に置いた紙面づくりを目指し、数多い生涯学習情報の公平で効果的な提供を図っている。		行政情報だけにとどまらず市民の幅広い生涯学習活動を吸い上げ、発信することにより、生涯学習活動の共有化が図れている。			4-1-4 学習情報の収集・発信	
人材バンクについて実行委員会を組織し「人材バンク紹介フェア」を開催し市民への制度の周知に努めた。		年々利用件数が増加するとともに、人材バンク登録者同士の交流及び生涯学習推進センターとの連携強化が図れた。			4-1-5 学習資源の蓄積・活用	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
幅広い世代が受講しやすくなる環境を整備する。		現在は、子供を対象とした講座や、資格取得といった若い世代を対象としたものに限って土・日開催しているが、今後は、市民教養セミナーや生活応援講座にも広げていきたい。			4-1-1 学習機会の充実	
市民大学について、参加者の高齢化が顕著になり、市民に対し高齢者大学との差別化が解り難くなっている。		市民大学の精神を正しく伝達するとともに、将来的には、健康大学や高齢者大学等との合理的な連携も視野に入れていく。			4-1-1 学習機会の充実	
生涯学習活動の成果が、地域で求められている人材の育成地域づくりに繋がり難い現状がある。		生涯学習活動を通じた生きがいや活力を、地域を支える人材の活躍に繋げていく事業を展開していく。そのためには、市民大学をはじめ各種講座の在り方も再検討していく。			4-1-2 市民の学習と学んだことを地域に活かすための支援	
IT相談について、PCがどんどん多様化し、民間業者の相談窓口もある。そのような場所で相談できない相談者の高齢化が顕著でありいつまで継続していくかの判断が難しい。		ますます高度化していくICT(情報通信技術)について、市民のボランティア相談員により、同じ目線で気軽に相談できる窓口として開設する意義は大きいので、今後もIT相談事業を充実させていく。			4-1-3 学習環境の整備・充実	
生涯学習情報紙の発行について、紙面スペースに限りがある中で、読者を引き付けられるような魅力的な記事の掲載が求められている。		生涯学習情報紙としての役割を常に念頭におき、市民にとって更に見やすく分かりやすい紙面になるよう、引き続き編集、校正に力を注ぎ、質の高い情報発信に努めていく。			4-1-4 学習情報の収集・発信	
人材バンク制度について、登録者数に比べてまだまだ利用が少ない。		関係機関との連携も模索しながら人材の発掘と活用を図っていく。また登録者の意識向上を目指し、研修会や交流会等を開催し、制度の理解や情報交換等を行う。			4-1-5 学習資源の蓄積・活用	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	教育総務部次長 千葉 裕之			

第2節	学校教育	まちづくりの目標	子どもたちが生きる力を身に付け、一人ひとりの良さや可能性を伸ばせるまち			
基本方針	4-2-1 確かな学力と自立する力の育成					
	4-2-2 豊かな心の育成					
	4-2-3 健やかな体の育成					
	4-2-4 地域が信頼する学校づくりの推進					
	4-2-5 学校環境整備の推進					
	4-2-6 地域におけるネットワークの強化					
	4-2-7 教育環境の充実					
関係所属	教育総務課、教育施設課、社会教育課、スポーツ振興課、学校教育課、保健給食課、教育センター、経営企画課					
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)				要望率	全節中順位	分野中順位
				16.4%	11位	1位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果		《基本方針》		
学力向上支援講師、学習支援員など、学校への各種人的配置を進めた。		人的配置の充実により、児童生徒へのきめ細かい指導の充実と一人一人と向き合う時間の確保につなげることができた。		4-2-1 確かな学力と自立する力の育成		
児童生徒の学力向上に向けて、学校での授業研究、家庭学習の啓発、地域行事への参加を進めた。		学校・家庭・地域が一体となった取組により、児童生徒の学習意欲を高める取組の充実を図ることができた。		4-2-1 確かな学力と自立する力の育成		
これまで中学校に配置していた「心のふれあい相談員」を、小学校全校にも拡大して配置した。		小学校にも「心のふれあい相談員」を配置することにより、児童生徒一人一人に寄り添う相談体制の充実を図ることができた。		4-2-2 豊かな心の育成		
安全・安心な学校と地域づくり推進本部・同支部を組織し、学校と地域との危機管理体制を構築した。		学校での暴力行為やいじめへの適切な対応、交通安全の推進を図ることができた。		4-2-2 豊かな心の育成		
児童生徒、保護者、地域を対象とした食育推進事業として、学校給食センターサマーフェスタ・食育フォーラムなどのイベントを開催した。		保護者や地域の方たちに、子ども達の給食や食の大切さを知らせることができ、学校給食と家庭・地域が連携した食育へと繋がった。		4-2-3 健やかな体の育成		
各学校が、創意工夫を凝らした特色ある教育活動を展開した。また、学校問題に詳しい弁護士に法律相談ができる体制を構築した。		地域の力をお借りし、充実した体験活動を実施することができた。また、弁護士に法的側面からアドバイスを受け、学校で起こる問題の早期解決に繋げることができた。		4-2-4 地域が信頼する学校づくりの推進		
若手教員育成のための指導主事によるマンツーマン指導や、学習指導の実践力を高めるための研究等を行い、教職員の資質向上を図った。		専門性の高い講師を招聘しての研修会や研究を通して、教師の指導力の向上を図り、地域に信頼される学校の一助となった。		4-2-4 地域が信頼する学校づくりの推進		
平成27年度から、これまでの二学期制の良さを生かした「新たな三学期制」による教育課程の編成を実施した。		長期休業前に、保護者・児童生徒に学期ごとの評価を伝えることで、学習や生活への振り返りを行うことが可能となった。		4-2-4 地域が信頼する学校づくりの推進		
老朽化が進んでいる学校トイレについて、洋式化、バリアフリー化、床の乾式化などの改修事業を進めている。		工事完了後の児童生徒及び教職員へのアンケートで、「臭わない」「キレイ」「明るい」など大変好評な結果を得ており、学校環境の向上が図れた。		4-2-5 学校環境整備の推進		
防衛省が定めた第一種区域にある狭山ヶ丘中学校及び北中小学校について、国の補助金を活用し、防音校舎改修事業(復温除湿工事)を進めている。		平成29年度に、狭山ヶ丘中学校特別教室棟の復温除湿工事を実施し、すべての教室の設置が完了した。また、北中小学校は、平成30年度に普通教室の復温除湿工事を完了し、学校環境の向上が図れた。		4-2-5 学校環境整備の推進		
地域の方による児童の自主的な学び・遊びの場として、「ほうかごところ」を10校で開設している。		地域が運営する「ほうかごところ」により、安全安心な居場所の提供、また、異年齢間の交流が促進された。		4-2-6 地域におけるネットワークの強化		

平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題

課題		今後の方針	《基本方針》
学校・家庭・地域が連携した学力向上への取組を行い、また、人的支援の充実にも努めていく。		「学び創造アクティブプラン」により、授業研究等を行い、学力の向上を図る。 各種支援員等、学校への人的配置を進める。	4-2-1 確かな学力と自立する力の育成
教育ネットワークシステム、タブレットや電子黒板等のICT機器の効果的な活用		「所沢市教育情報化推進計画」をもとにICT環境整備を進めるとともに、ICTの効果的な活用を研修等を通して広めていく。	4-2-1 確かな学力と自立する力の育成
生徒指導、教育相談体制の充実		「健やか輝き支援事業」により、専門スタッフによる生徒体制の充実、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員によるいじめの防止、早期発見、早期対応の教育体制の充実を図る。	4-2-2 豊かな心の育成
学校給食施設の再整備。		安心・安全な学校給食を安定的に提供するために、老朽化が進む学校給食センターの再整備を段階的に進める。	4-2-3 健やかな体の育成
特色ある教育活動の充実		各学校に児童生徒の実態、地域のよさを踏まえ、創意工夫を凝らした特色ある教育活動への支援を充実させる。	4-2-4 地域が信頼する学校づくりの推進
学校内外の危機管理体制の充実		「安全・安心な学校と地域づくり推進事業」により、登下校パトロール、学校訪問などを通して、交通事故・暴力行為・いじめの未然防止を図る。	4-2-5 学校環境整備の推進
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	教育総務部次長 千葉 裕之、学校教育部次長 戸村 達男 学校教育課部教育センター担当参事 長谷川 陽子、学校教育部保健給食担当参事 池田 隆人、経営企画部次長 林 誠、

第3節	青少年育成	まちづくりの目標	若者が自覚と責任を持ち、活躍ができるまち			
基本方針	4-3-1 地域・家庭・学校の連携強化					
	4-3-2 青少年へのサポート体制の整備					
	4-3-3 ニートや引きこもりの子ども・若者への支援の充実					
関係所属	青少年課、学校教育課					
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)				要望率	全節中順位	分野中順位
				9.6%	24位	2位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
「三つ葉の提言」の改定を行った。		青少年の健全育成を図る上で重要な指針となる「三つ葉の提言」は、所沢市青少年問題協議会が取りまとめて10年が経過し、内容を改める必要性が生じたことから改定版を作成するとともに周知を図った。			4-3-1 地域・家庭・学校の連携強化	
青少年の健全育成事業を行った。		青少年の非行被害防止や健全育成についてのキャンペーンを通じて啓発活動を行った。また、青少年育成所沢市民会議などの関係機関と連携し、青少年の健全育成を図るために「家庭の日」推進事業や所沢郷土かるた大会、スポーツ大会等を開催した。			4-3-1 地域・家庭・学校の連携強化	
児童館に指定管理者制度を導入した。		児童館管理運営に民間活力を導入し、開館日数の増加や事業の多様化により、利用者数の増加が図られた。			4-3-2 青少年へのサポート体制の整備	
青少年の育成支援に係る活動の支援を行った。		所沢市青少年相談員協会によるワンパクスクールなどの青少年が自然体験や社会体験を通じて異年齢交流を図る活動を支援した。			4-3-2 青少年へのサポート体制の整備	
「子ども・若者支援ガイド」を作成した。		子ども・若者を対象とした教育、子育て、就労、こころの健康について相談ができる行政機関等をまとめた「子ども・若者支援ガイド」を平成26年8月に作成、平成30年12月に改定し、市ホームページに掲載するとともに青少年課窓口や市の関係機関に配布し、周知に努めた。			4-3-3 ニートや引きこもりの子ども・若者への支援の充実	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
「三つ葉の提言」改定版の周知を図る		家庭・地域・学校がそれぞれの役割を再認識し、連携を深めながら青少年の健全育成を図るため「三つ葉の提言」の普及を図る。			4-3-1 地域・家庭・学校の連携強化	
子ども・若者への支援を充実させる。		様々な悩みを抱える子ども・若者を相談機関につなげていくため、引き続き「子ども・若者支援ガイド」の周知・活用を図る。			4-3-3 ニートや引きこもりの子ども・若者への支援の充実	
記入日 令和元年12月27日 記入者職氏名 こども未来部次長 町田 真治						

第4節	社会教育	まちづくりの目標	地域や市民が主体となり、それぞれの経験を活かし、世代を超えて協働できるまち		
基本方針	4-4-1 家庭・地域の教育力の向上				
	4-4-2 人権教育の推進				
	4-4-3 公民館機能の充実				
	4-4-4 図書館機能の充実				
関係所属	社会教育課、所沢図書館、教育センター				
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)			要望率	全節中順位	分野中順位
			5.2%	39位	6位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果					
取り組み		成果		《基本方針》	
所沢市子ども会育成会連絡協議会と協力して、子ども会や子ども会育成会の活動を支援した。		様々な体験を通して子どもの生きる力が育成されたほか、子ども会活動を支える育成者の学びや交流の機会にもなり、地域の教育力向上に貢献した。		4-4-1 家庭・地域の教育力の向上	
子ども会育成会活動を担う保護者を対象に、子ども会育成事業の基本的事項を学ぶ研修会を開催した。		子ども会活動を支える育成者が子ども会活動に抱く不安解消の一助となった。		4-4-1 家庭・地域の教育力の向上	
様々な人権課題を取り上げた人権講座を関係団体との共催等で開催した。		講座テーマに子どもたちを取り巻くネット問題やLGBT等の新たな人権課題や、避難所における人権的配慮等、新たなテーマも加えることで、人権に関する様々な課題の関心や理解を得られた。		4-4-2 人権教育の推進	
人権教育講座での人権啓発ビデオの視聴		講座に参加者や講話テーマに合わせた人権啓発ビデオの視聴を設けることで、短時間の講座内で分かりやすく様々な人権課題を参加者へ伝えることができた。		4-4-2 人権教育の推進	
市民の学習活動の拠点として、地域のニーズに合った様々な学習機会を提供した。		市内12館(分館を含む)の公民館で、毎年300を超える事業を開催し、毎年9万人を超える参加者があった。		4-4-3 公民館機能の充実	
図書館の今後の方向性を示す中期計画として「所沢市図書館ビジョン」を策定した。		図書館が目指すべき方向性を明確化することにより、市民に役立ち親しまれる図書館サービスの提供について計画的に推進することができた。		4-4-4 図書館機能の充実	
平成24年度から図書館分館7館の運営に指定管理者制度を導入し、利用機会の拡大・サービスの向上に努めた。		全館での祝休日開館、所沢分館・新所沢分館での平日夜間開館の実施により、図書館利用の利便性が向上した。また、多彩な自主事業の実施により、行事開催回数及び参加者数が大幅に増加した。		4-4-4 図書館機能の充実	
「所沢市子どもの読書活動推進計画」に基づき、連絡会を開催し、関係機関との連絡調整を図ると共に、連携による防衛医科大学校病院内学級への事業を拡充した。		関係機関との連携による新たな事業を実施したことにより、図書館への来館が困難等の理由で、本に触れる機会が少ない子どもたちの読書機会が拡大した。		4-4-4 図書館機能の充実	
第8期の図書館電算システム再構築を実施した。		サーバのアウトソーシングによる災害時のリスク軽減や、セキュリティの強化、アクセシビリティに配慮した図書館ホームページのリニューアルなどを行い、利用者の利便性の向上を図った。		4-4-4 図書館機能の充実	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題					
課題		今後の方針		《基本方針》	
子どもの体験活動の充実		子どもの健全育成のため、子ども会活動等を支援するなど、体験活動の充実を図る。		4-4-1 家庭・地域の教育力の向上	
様々な人権問題解決に向けた学習の場の充実		人権尊重社会の実現のため、同和問題をはじめ、インターネットによる人権侵害やLGBTなど、様々な人権課題について学ぶ場を設け、人権教育の一層の推進を図る。		4-4-2 人権教育の推進	
地域や時代のニーズに合った学習機会の充実		地域や時代のニーズに合った学習機会をさらに充実させるとともに、市民と協働し、地域づくりや人づくりに寄与する事業の充実を図る。		4-4-3 公民館機能の充実	
公民館事業の充実		公民館事業を充実するために、公民館担当職員の人材育成に努めます。		4-4-3 公民館機能の充実	
図書館の資料情報の充実と機能の拡充		平成31年3月に策定した「第2次所沢市図書館ビジョン」に基づき、市民に役立つ地域の情報拠点として、多様化する市民ニーズを捉えた資料・情報の充実及び図書館機能の拡充を図り、質の高い図書館サービスの提供に努める。		4-4-4 図書館機能の充実	
子どもの読書活動のさらなる推進		平成31年3月に策定した「第3次所沢市子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもたちがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、関係機関等と連携しながら施策を進める。		4-4-4 図書館機能の充実	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	教育総務部次長 千葉 裕之		

第5節	市民文化	まちづくりの目標	市民が「ふるさと所沢」への愛着や誇りをもって個性豊かな市民文化を育むまち			
基本方針	4-5-1 個性あふれる文化の創造					
	4-5-2 ふるさと研究を推進するための環境の整備					
	4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信					
関係所属	文化芸術振興課、文化財保護課、生涯学習推進センター					
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)				要望率	全節中順位	分野中順位
				7.4%	32位	5位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
平成25年度から「所沢市子ども写生大会入賞作品展」の会場を生涯学習推進センターに変更し、作品展示のほか『造形活動体験ワークショップ』を行っている。		2,000人を超える「所沢市子ども写生大会」当日のほか、「入賞作品展」も2日間で1,000人を超える来場者があり、多くの子どもたちが親や友人とのふれあいを深める場となっている。			4-5-1 個性あふれる文化の創造	
平成29年度に「所沢市文化芸術振興ビジョン」を策定するとともに、附属機関として新たに「所沢市文化芸術推進会議」を設置した。		本市の文化芸術分野における中長期的な方向性が明らかになり、今後の文化芸術に関する施策等について、ビジョンを踏まえて審議・推進する体制が整った。			4-5-1 個性あふれる文化の創造	
PFI手法を用いて実施する所沢市民文化センター改修事業について、本事業を実施する事業者と平成30年7月3日に本契約を締結し、予定どおり12月10日から工事に着工した。		PFI手法を用いることにより約10億円の費用削減効果を達成した。			4-5-1 個性あふれる文化の創造	
平成29年度に今後の「音楽のあるまちづくり」の核となる「空飛ぶ音楽祭」を開催した。		航空公園とミュージアムが隣接して存在するという恵まれた環境を最大限に活かし、クラシックからポップスまで、幅広いプログラムで、市内外から集まる観客に所沢の魅力をアピールした。			4-5-1 個性あふれる文化の創造	
平成30年4月1日に所沢駅東口市民ギャラリーを開館し、指定管理者による管理運営を開始した。		市民の文化芸術活動等を促進する場として展示スペースを市民が利用できるようになり、日ごろの活動を発表するとともに、作品に多くの人々が触れる機会の創出にもつながった。			4-5-1 個性あふれる文化の創造	
生涯学習推進センターふるさと研究エリアでは、郷土の自然・歴史・芸術・文化等の資料収集、研究を進め、これらの成果を市民に伝える体験学習、展示、講座等を実施した。		各種講座や企画展事業を行い広報普及に努めたことにより、ふるさと所沢への理解が深まりつつある。また、市民学芸員(市民ボランティア)が企画展等に関与出来るようになってきた。			4-5-2 ふるさと研究を推進するための環境の整備	
平成27年度は、三ヶ島葎子資料室の開設20周年を記念して、企画展示の開催及び、「三ヶ島葎子Ⅲ花おりおり」を発行した。		「三ヶ島葎子Ⅲ花おりおり」は、短歌の中に読まれる花等の事象に着目したことにより、短歌以外のジャンルの方々にも普及出来た。			4-5-2 ふるさと研究を推進するための環境の整備	
収蔵庫設置事業については、平成27年に、教育委員会の若手職員による郷土資料等の保存対策プロジェクトを組織し、資料の保存・活用について検討した。また、資料保存の必要性を広く市民に周知するために「ふるさと研究フォーラム」を開催した。		郷土資料等の保存対策プロジェクトを報告書にまとめ、今後の指針づくり等の参考資料とした。また、フォーラムの開催により、資料保存施設の必要性を市民に周知した。			4-5-2 ふるさと研究を推進するための環境の整備	
埼玉県指定史跡「滝の城跡」の保存整備に向けた発掘調査を6次にわたり実施し、現地説明会も開催した。		発掘調査により、井戸跡や障子堀等の遺構を発見、かわらけ等の遺物が出土するなどの新たな発見があり、説明会を開催し市民への周知をはかり関心も高まった。			4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
新たに市指定7件と、国登録有形文化財2件が登録され、周知や公開活用に努めた。		新たな文化財の市指定や国登録について、市民への周知や公開を随時行い、文化財保護意識の醸成と啓発に努めた結果、公開活用事業への参加者も増えた。			4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
ミヤコタナゴ保護のため人工増殖により毎年一定量の個体数を確保し、埼玉県と保存会等と協働で産卵する二枚貝の繁殖実験に取り組んだ。		人工増殖と保存会による上山口保護増殖実験池での自然繁殖により個体数を維持した。また、埼玉県(川越県土整備事務所)と市、保存会により二枚貝の生息実験を行ないデータを収集した。			4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
伝統芸能発表会を隔年で開催するとともに、お囃子体験コーナーを設けるなど工夫して発表会を盛り上げた。		出演団体の発表だけでなく、来場者による体験を実施したり、子どもの参加を促すことで来場者が増え、保存継承の啓発につながった。			4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
民俗資料館の位置づけを明確にし、管理・運営方法について見直した。		公の施設として位置づけたことで、施設の管理・運営や所蔵資料についても明確にでき、保存会との協力関係も構築できた。			4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	

平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題

課題	今後の方針	《基本方針》	
「所沢市文化芸術振興ビジョン」を策定し、所沢市の文化芸術分野の将来方向性を明らかにする。	「所沢市文化芸術振興ビジョン」に基づき、所沢市の文化芸術分野の魅力づくりを充実させる。	4-5-1 個性あふれる文化の創造	
文化拠点である市民文化センターの改修事業を推進する。	利用者ニーズの多様化に対応するとともに、施設の安全性・安定性を確保し、適正な管理・運営を図る。	4-5-1 個性あふれる文化の創造	
「音楽のあるまちづくり」の核となる「空飛ぶ音楽祭」を開催する。	「空飛ぶ音楽祭」を継続して開催し、「音楽のあるまち＝所沢」のイメージを所沢ブランドとして定着させる。	4-5-1 個性あふれる文化の創造	
郷土の自然・歴史・芸術・文化等の資料収集、研究を進め、これらの成果を市民に伝える体験学習、展示、講座等を実施することにより、ふるさと所沢への理解を深める。	郷土の自然・歴史・芸術・文化等の資料収集、研究を進め、これらの成果を市民に伝える体験学習、展示、講座等を市民ボランティアである市民学芸員を活用して進めていき、市民のふるさと所沢への愛着と理解を深める。	4-5-2 ふるさと研究を推進するための環境の整備	
資料保存の必要性に対する周知と収蔵庫の設置	収蔵庫設置事業については、資料保存の必要性を市民に周知し、理解を求める活動を続けるとともに、既存施設の活用も視野に入れて検討していく。	4-5-2 ふるさと研究を推進するための環境の整備	
埼玉県指定史跡「滝の城跡」について、保存整備のための発掘調査の結果をまとめ、整備計画を策定し、整備工事に実際に着手すること。	発掘調査報告書の作成、保存整備計画策定委員会の設置と整備実施計画の策定と計画にもとづく整備工事に着手する。	4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
文化財の保存と活用	文化財に関わる調査を実施し、指定未指定にかかわらず保存に取り組むとともに、文化財の普及・啓発のための活用にも努める	4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
ミヤコタナゴの保護のため、人工増殖による個体数の確保と産卵する二枚貝の繁殖実験を継続し、自然復帰を実現すること。	人工増殖の継続、二枚貝の繁殖実験の検討と実施を継続、埼玉県・上山口ミヤコタナゴ保存会等関係機関や団体との連携を強化する。	4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
重松流祭りばやしや岩崎熊獅子舞等の伝統芸能についての後継者の育成支援	伝統芸能発表会等の発表の場を継続するとともに、後継者問題について地域ごとの課題を整理し、支援方法を考えていく	4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
文化財の管理と保存環境の整備	文化財の保管に関して、所有者が抱える課題を整理しつつ、管理の充実と保存環境の整備に努める。	4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	市民部次長 大館 真哉、教育総務部次長 千葉 裕之、教育総務部文化財保護担当参事 肥沼 位昌

第6節	スポーツ振興	まちづくりの目標	市民が手軽にスポーツを楽しみ、健康長寿になれるまち			
基本方針	4-6-1 スポーツ施設の整備・充実					
	4-6-2 スポーツ事業の充実					
	4-6-3 スポーツ指導者の充実					
	4-6-4 自主的なスポーツ・レクリエーション活動の支援					
	4-6-5 スポーツを通じた健康づくり					
関係所属	スポーツ振興課					
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)				要望率	全節中順位	分野中順位
				9.6%	25位	3位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
所沢市民体育館のメインアリーナ床改修工事等、既存施設の修繕を行った。		施設の安全性の確保と利用の充実を図ることができた。			4-6-1 スポーツ施設の整備・充実	
所沢市民体育館がナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設(ゴールボール)の指定を受けたことにより環境整備や情報の収集、発信を行った。		選手やコーチの要望に応え、練習環境を整えることができた。			4-6-1 スポーツ施設の整備・充実	
スポーツ推進委員によるスポーツ指導・普及とともに、市民を対象としたスポーツ大会や親子を中心としたスポーツ教室を開催した。		広く市民にスポーツを振興し、体力向上並びに地域コミュニティを推進することができた。			4-6-2 スポーツ事業の充実	
ところざわ健康体操(とこしゃん体操)普及のため、地域団体等と連携して体験教室を開催するとともに、指導者の育成に努めた。		高齢者を中心とした運動を通じた健康、体力づくりに寄与した。			4-6-3 スポーツ指導者の充実	
財政的支援だけでなく、大会等の情報提供などを通じ、各種スポーツ団体の活動を支援した。		市民のスポーツ・レクリエーション活動の推進を図ることができた。			4-6-4 自主的なスポーツ・レクリエーション活動の支援	
各種スポーツ大会や教室について年間予定一覧を作成・配布するとともに、市のホームページを活用して積極的に事業の情報発信を行った。		各種スポーツ教室への参加者が増加し、市民の健康増進や生きがいがいづくりに貢献した。			4-6-5 スポーツを通じた健康づくり	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
市民が快適に施設を利用するための施設整備。		計画的な施設整備、既存施設の修繕を行っていく。			4-6-1 スポーツ施設の整備・充実	
スポーツの普及・発展。いつでも、どこでも気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくり。		ライフステージ等に応じたスポーツプログラムの充実を図るとともに、手軽にできるスポーツを通じて、健康づくりを推進していく。			4-6-2 スポーツ事業の充実	
スポーツ指導者やボランティア等への支援。		スポーツ団体と連携、協力し、人材育成を継続して行っていく。			4-6-3 スポーツ指導者の充実	
市民のスポーツへの関心や参加意欲の向上。		全国大会をはじめとする大規模なスポーツイベントの開催支援や東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし機運醸成を図っていく。			4-6-4 自主的なスポーツ・レクリエーション活動の支援	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	教育総務部次長 千葉 裕之			